

# 第55回全日本教職員バドミントン選手権大会 レフェリー報告

教職員大会 競技役員長  
吉川 隆明

第55回全日本教職員バドミントン選手権大会が無事終了したことを、今大会の開催県である鳥取県教職員バドミントン連盟、鳥取県バドミントン協会の皆様をはじめ、鳥取市他、大会運営にご尽力いただいた方々に心よりお礼申し上げます。

今年の夏は西日本で猛暑日が続き、例年に比べても特に暑い日が続いている年でした。空調が効く体育館であっても、どの程度その効果があるか心配なされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私もその一人でしたが、今大会で開催されたコカコーラウェストスポーツパーク県民体育館は、むしろ夏場にしては寒いくらいの空調の効き具合で、汗をかく量が少なかったのではないのでしょうか。快適な会場と環境をご用意していただいたことで、おかげさまで試合時間も短くなり、無事に大会が運営されたことは、誠にもって皆様に感謝申し上げます。

今年はリオデジャネイロでのオリンピック開催期間中に教職員大会が開かれ、バドミントン競技では女子ダブルスで金メダルを、女子シングルスでは銅メダルを獲得するなど、日本のバドミントンのレベルは現在では世界トップレベルとなり、その他の競技においてもメダル数の獲得数もこれまでで最も多く獲得され、アスリートたちの活躍は私たちに希望や力を与えてくれました。次の東京オリンピックに向けて、さらなる強化が求められることとなりました。私たち教職員は、日頃生徒・児童を始めとするジュニアの育成をし、その底辺を支える指導に関わっています。その意味でも、今回のオリンピックの成果は、直接的ではないにせよ、これまでの私たち教職員の取り組みは大いに誇れることと思います。

日本選手の活躍は世界的に注目されることとなりました。今後は追われる立場と言ってもおかしくはないでしょう。その意味で、競技の技術力だけでなく、試合におけるマナーについても注目されていくことでしょう。過去のオリンピックの試合では、他国の選手の中には駆け引きのためにアンパイアと揉めることがありました。私たちは、勝つためには手段は選ばないということではなく、ルールやマナーに則った正々堂々と戦える選手を育成していくことが求められます。僭越ながら大会を通じ競技者として試合で競い合う中、互いの技術を学び取り、競技規則やマナーを身につけて日頃のご指導に活かさせていただけたらと切に願っております。

残念なことに、今大会ではエントリーしていた一般男子のシード選手の一人に参加資格がないことが判明し、組み合わせ後にご迷惑をおかけしました。参加資格の有無は、各都道府県連盟で確認していただき、間違いのないようにしていただければ幸いです。

今年度途中に、(公財)日バから2件の通知があり、その対応として1つはステンシルマークの使用の許可を連盟として認可しました。また、もう1つは棄権に関するもので、当該の大会期間中の棄権後の出場権に関するのですが、その時のレフェリー判断で対応することとなりました。

最後になりましたが、大会の組合せ会議や大会運営では、事務局担当の中島氏や教職員連盟の辻中氏、ディプティレフェリーの源氏らと大会直前まで周到な連絡協議をさせていただくとともに、大会期間中もたいへんお世話になりました。大会期間がお盆の時期でもあり、レセプションでも紹介された鳥取市のしゃんしゃん祭りも賑やかで、郷土色が溢れる期間であったことも、開催地の素晴らしさがより印象深くなった大会でした。短い準備期間でありながら、無事に終了できたことは、何より地元の事務局をはじめ、多くの方々のお力の賜物でございます。あらためて、皆さまのご尽力に敬意と感謝の意を表したいと存じます。